

ディヤコニア



説教

平和を願って

坂井賢治

(大泉ベテル教会牧師)

このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストとの間に平和を得ておられ、このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。

(ローマの信徒への手紙

5章1〜2節)

全ての人は平和を願っています。私も毎日、平和を願って祈ります。

ローマの信徒への手紙5章1節でパウロは、「信仰によって義とされる」即ち、主イエスを信じることによって私たちは、神様との間に平和を得ている、と言っています。パウロは、このことを通して生きる、ということを取り上げようとしているのです。

義とされたとは、私たちが正しい、ということではなく、神様との関係を表しています。それまで神様との間には、大きな断絶がありました。イエス・キリストを信じることによって修復され、神様との親しい交わりが回復されたことを意味しています。それは、神様との愛の交わりの中に導き入れられた、ということです。

しかし、私たちの生活には困難、苦しみ、悲しみ、不安、悩みや病がついて回ります。他の宗教では、苦しみは神を否定し、世界を呪うことにつながっていますが、キリスト教ではそうではありません。人間の苦しみは、主イエスの十字架の苦しみとつながり、主の痛みや苦しみを信じるようになります。信仰によって新しい道を見出し、解決が示され、苦しみを取り除かれ、更に、信仰による希望、喜び、平和が与えられるのです。

人が平和に生きることが出来ない原因は、人間が互いに、自分の利益や幸せしか考えないからではないでしょうか。

言い換えればエゴです。しかし、そのことが分かっているにも、人間の力では克服することが出来ないのです。

聖書において平和とは、神様と人との間に良い関係が保たれることです。その関係が破壊されているならば、人と人との間に平和はありません。神様と人との間に平和が生まれないのは、人間の罪のためです。神様を侮り、自分の力に頼り、神様に代わって、自分を世の中心に据えて生きる不信仰、傲慢や自己中心といった罪によって神様との関係が破られ、挙げ句の果てに、神様を敵とし、神様の怒りを招いているからです。

国家と国家との間に平和がないのは、やはり、神様に対する罪、信仰の乏しさが原因でしょう。信仰によって他国を信じ、愛することが起こらなければなりません。

2節でパウロは、「今の恵みに」という言葉を使っていますが、これは、「私たちが今、立っているこの恵みに」という意味です。主イエスによって神様がどんな

時にも、味方となって下さる、という恵みに、信仰によって導き入れられ、神様のみがお持ちになっている栄光に与る希望が与えられる、とパウロは、確信を持って語っています。

「導き入れられる」とは、神様のみ前に導かれ、神様に近づき、礼拝をおささげする、という意味です。私たちが礼拝をおささげすることが出来るのは、当然のことではありません。私たちの罪を赦して下さるために自ら十字架にお架かりになられたイエス・キリストのお陰なのです。

神様に従うことは、神様が真実でいらつしやるからです。私たちがどんなに不信仰であっても、また神様に対して不真実であっても、神様は、私たちに對する救いの約束をお忘れになることなく、イエス・キリストの十字架によって神様と人間との間に和解を成し遂げて下さり、平和を与えて下さいました。それ故、私たちは、神様に近づき、礼拝することが可能になったのです。これが神様の恵みです。これこそが信仰によって救われた

証拠です。

この世において、神様との関係を説くよりも先に、この世の状況に目を向けます。戦争や不和に目を向け、平和を取り戻そうと訴え、祈るのです。

最近、目に付くことは、凶悪な犯罪、親が我が子を虐待し、殺害する事件、殺人事件、テロによる無差別殺人、傷害事件が起こっています。幼児虐待、家庭内暴力、高齢者に対する詐欺事件などが日常の生活の中で起こっています。誠に嘆かわしいことです。また無謀な運転による交通事故が多発しています。

元ノートルダム清心女子大学学長渡辺和子さんが次のような文章を書いていました。「愛によってのみ『見える』ものが世の中にある。私たちは、聖書の中に出てくる盲人と同じく、『主よ、見えるようにして下さい』と祈らなければならぬのだ。日常生活の随所にいらつしやる主のお姿に気づくように。そして愛をこめて生きることができるよう」。

イエス・キリストを信じる者同士が教

会において、家庭において、地域において、学校において神から頂いた愛を十分に、生かし、互いに、愛し合うことから始めましょう。

キリスト者がそのように生きる時、世界は、少しずつであっても、変化し、平和に近づくでしょう。愛は、愛を生み出し、豊かに注がれた愛が次の愛を生むようになり、世界中に、愛が溢れ、イエス・キリストにある真の平和が造られて行くのです。

常に、イエス・キリストにある平和が世界に訪れるように願って、祈り、そして、愛を他の人々に注ぎ続ける努力をして行きましょう。



キリストの愛をはこんだ人々4
フリードリッヒ・フォン・
ボーデルシユヴィング

1954年の冬、23歳のフリードリッヒ・フォン・ボーデルシユヴィング

(Friedrich von Bodelschwingh' 1831・3・6—1910・4・2)は、神学を学ぶためにスイスのバーゼルの大学にはいりました。彼は古いプロシアの貴族の出でありましたが、海外伝道へと召されていることを知り、ボンメルンにある土地の相続を放棄しました。

けれども4年の勉学ののち、彼はアフリカへ行くかわりに、パリに赴きました。フランスの首都には、当時ほぼ10万人の貧しいドイツ人が、きわめてひどい境遇におかれておりました。そうした最もひどい無産階級の住宅街に、彼は小さい教会を建て、病人を訪れ、子どもたちを集めて教会をはじめました。

6年の後、この《街路掃除夫》は、そ

の仕事を放棄しなければなりませんでした。妻の弱い健康が帰国をよぎなくしたのです。彼は西ドイツの大きな農村の牧師の職に就きました。8年間、デルヴィツヒで祝福された奉仕にはげむ真中で、4人の子供を全部一度に病気で喪つてしまいました。



このきびしい神の審きのもとに、かれらは人間の苦への理解をあたえられ、また永遠と固くむすびついたのです。彼は、病気さえも新しい観方によって判断するようになりました。

その頃ビエレフェルト(Bielefeld)というところに、癩痢の子供のための施設とデアアコニッセの家が建てられ、これを管理する牧師を求めています。1

872年に、ボーデルシユヴィングはそこに入りました。それが彼の生涯の仕事となったベーテルの起りであります。

悩めるものすべてに対する彼の深い愛は、彼の信仰からほとばしり出たものであります。と同時に、それは教育的な理解と結びついたものでした。したがって、子供たちも、大きな建物で世話することをさげ、ちいさな集団で個々の家に、養父母と共にくらすようにしました。どの子も、その能力にに応じて仕事を与えられました。かれらはふたたび、勇氣と自信とをとり戻しました。ボーデルシユヴィングの歎びにみちた神信頼、単純な教え、および乏しいものに対する思いやりは、間もなくかれらのあいだに大きな信頼を得ました。

ボーデルシユヴィングは、急速に成長したデアアコニッセ運動にとっても良い助言者でありました。彼はデアアコニッセの家を歓喜をもって計画しました。彼は、自分がよい教師であるとは考えませ

んでしたので、この課題を教育を受けた人材に委ねました。しかし、彼は定期的な、デアコニッセの時間を担当し、問答のうちに、姉妹たちを、ゆたかな神の言葉へと導きました。そこから、彼は基督教徒の課題、特にデアコニッセの使命をひき出しました。

子供のことをする姉妹たちには、毎週特別な時間がありました。いつも、だれか次に話す聖書の話させられました。そして最も劣つたひとでも、屢々いちばん優れた点をもらいました。

多くの課題をかかえて、ボーデルシュヴィングはひとりびとりのために、ほとんど時間をもちませんでした、ひとりびとりのためによく祈り、祝福式や派遣式にすぎだつて、たえずひとりびとりのデアコニッセへの配慮を怠りませんでした。

1877年に、デアコニッセの奉仕に加えて、デアアコーン(奉仕夫)の仕事がおこりました。兄弟たちは姉妹たちと力を合わせて憐れみの仕事にはげみしました。

或る職人の徒弟との対話は、ファーター・ボーデルシュヴィングに、ひとつの新しい大きな課題をもたらしました。――「オイラだつてテンカンみたいなんだ。」

それから彼は、家もなく仕事もなくさ迷い歩く病人ならざる病人たちのうえに鋭いまなざしをむけました。こうした(路傍の兄弟)たちのために、彼は、皇太子ヴィルヘルム・フリードリッヒを説得し、70歳から5年間、プロシアの国会に出て、労働者のよりよき生活条件のために激しくたたかいました。

彼はベルリンで、浮浪人の避難所でありながら、なんの仕事も与えられていない施設にとびこんで、「来たいものは誰か? 仕事も部屋もあるぞ!」と叫びました。彼は決してこうした兄弟たちに施しはしませんでしたが、不毛の荒地を買つて、そこを彼らのコロニーとしたのです。(金ではなく、憐れみが女王でなければならぬ。これによって施設は、物質的にも最上のものとなる)これがファーター・ボーデルシュヴィングの警告でもありま

した。彼自身はまったく寡慾でありましたからこそ、いつでも自由な気持ちで寄付を乞うことが出来、また得ることが出来ました。

ペーテルにおいて、神学週間を設けたことも、ボーデルシュヴィングの特別な功績でありました。毎年、教授――彼は(水汲み)と呼んだ――や牧師たちが、新たな責任の力を得るために、彼のもとに集まつて来ました。

ペーテル神は彼にもう一度、4人の子供を与え給いました。彼の妻は、彼にとつて死に至るまで、忠実な助手でありました。ボーデルシュヴィングは高齡にいたるまで仕事を続けましたが、80歳のとき卒中の発作に襲われ、なおもおおくの訪問や手紙の口授をして、安らかに終りの時を迎えました。その仕事は、豊かな智慧と正しい精神をもつた息子たちによって、つぎつぎと進められました。

(エリザベト・フヨリンガー)

1954年11月)

施設だより

かにた婦人の村の作業支援

手芸班の活動より

中村 健二郎

2019年2月現在、かにたの作業2班(手芸班)は、村人8名(内1名入院中)と職員2名で活動しています。

元々の2班は裂織や編物に力を入れていましたが、バザーの規模がだんだん大きくなるにつれ、その準備が作業の中心となってきていました。2014年、就労継続支援B型「かにた作業所エマオ」が開所したことにより、地域の利用者さんたちが通ってきて、バザーの作業を受け持つようになると、それを機に、作業2班は編物など各種手芸作品を作る作業班にシフトして、その時点から私が担当するようになりました。

当初は、簡単なアクリルたわしを編むことから始まりましたが、かにたの村人のみなさんは、もともと余暇に編物に親しむ人が多く、次第に、マフラー、帽子、

レッグウォーマー…と、徐々に作品の幅が広がりました。

初めは四角のシンプルなアクリルたわしを作っていたのに、いつのまにか自分で本を見て、かわいらしい動物型のたわしを編むようになった方がいます。この動物たわしはバザーでもたいへん好評で、出した物はだいたい売れてしまいます。

かにた便で施設長が写真を載せて紹介したところ、後援会員の方から問い合わせがあり、一度に20個のご注文を頂いたこともありました。

レース編みが得意で難しい作品を黙々と編む方もいて、その精密さには本当に驚かされますし、他にも編みぐるみの携帯ストラップやミサンガ、刺し子の布巾、いろいろな布で作る巾着袋など、時には真似をしたり教え合ったりして、思い思いに作りたいものに取り組んでいます。

一方で、編むことはできるけれど作品として仕上げるのが難しい方もいます。彼女たちが編んだ物は、他の村人や職員が工夫して接ぎ合わせ、ユニークな形の帽子やバッグ、クッションカバーなどに

仕上げます。編む人も仕上げる人も、完成した時は喜びで笑顔があふれます。

こうして生まれた作品は、バザーや施設見学のお客様に買っていただいています。その他の販路の開拓や、休止している裂織の再開などが、現在の課題です。

作業支援にあたり大切にしたいことは、かにたの村人にとって、作業班は「仕事」であると同時に、日中の「居場所」でもあるということです。「仕事」への責任感も確かに大切なことですが、もともと休みがちな人にとっては、作業班が安心して「居場所」でなければ、なかなか足を運ぶことができません。行きたいと思える「居場所」であるために、どんなことが必要かを意識することが大切です。

長年農園で作業をしていた方で、いよいよ毎日山に上るのが難しくなり、生活寮はユッカ(高齢者棟)に、日中はまだ何かできるからと、作業班は2班に移った方がいます。移ってしばらくは2班で編物をする日が続きましたが、そのうち「農園に行ってもええか?」と尋ね

るようになりました。農園の職員から「たまには山に手伝いにおいでよ」と声を掛けてもらったのがきっかけだったと思います。彼女の様子を見てみると、2班が嫌だという訳ではなく、やはり農園の職員から頼りにされるのがうれしいうでした。そこで、ユッカの担任や農園の

作業担当と連絡をとりながら、彼女が希望する日は農園に作業に行けるような形を、意識して続けるようにしてみました。

現在、彼女は毎朝、所属する2班にまずは顔を出します。天気がいい日はほぼ確実に「今日も上(農園)に行つてええかな?」と尋ねてきます。「ちよつと待つてね、○○さん(農園職員)に聞いてみるから」と言つて電話をかけて確認をとり、「だいじょうぶですよ、どうぞ〜」とお返事を伝えると、本当に嬉しそうにしつかりとした足取りで山へ上がってきます。慣れ親しんだ場所です。むしろ農園に所属していた頃よりも出席率がいいかもしれません。ユッカに移つて少しゆつたりとした生活になったことで、

心にゆとりができ、農園で作業していたころの気持ちや意欲が回復してきたように感じられました。高齢者棟の利用者さんとしては十分な運動量も確保できて、生き生きと生活していらつしやるように見えます。

このケースから改めて感じたことは、高齢になると農園の作業は難しいとか、2班に所属したら毎日編物をするとか、そういう形式的なことに囚われ過ぎずに、一人ひとりに合った柔軟な対応を考えることや、関係する職員が丁寧に連携することの大切さです。

ありきたりですが、一人ひとりの様子をしっかりと見るとか、丁寧に話を聴くことが必要です。別のケースですが、数年前には、作業時間中にも関わらず、話を聴くだけで半日費やすようなことが続いていた方がいます。現在は、原則週1回1時間程度の面談ペースに落ち着いてきました。もちろん長引いてしまうことも時々ありますが、これも、担任も含めた何人もの職員が、いろいろな場面で彼女の話丁寧に聴くことを積み重ねてきた

からこそ、変わってきたことだと思つています。

村人のみなさんの悩みの大半は、作業内容とは直接関係ない、利用者同士や職員との人間関係のストレスの訴えです。

精神的な障害、聴覚障害、言語能力不足など、それぞれの人が様々なコミュニケーション不全の要因をもっています。

最近では、発達障害の二次障害による暴力行為が出てしまう方や、自傷行為、窃盗が激しい方も入所してきていて、そういう方々が、すぐ作業のプログラムに乗つていくことの難しさも痛感しています。

それでも、どんな人でも、頭から否定されることなく受け入れられることで、落ち着いて作業に取り組む土台が築かれていくのだと思います。自分の「仕事」がどこかのだれかの「役に立つ」ということに、喜びと充実感を感じていただけるように、そして「仕事」に対する責任感が徐々に芽生えてくるように、辛抱強く働きかけていきたいと思っています。

(かにた婦人の村・副施設長)

施設だより

エマオ館山駅前店オープン

かにた作業所エマオ

佐々木 清

2019年1月、かにた作業所エマオの館山駅前店がオープンいたしました。

1年前、「物を生かし、人を活かす。ご寄贈下さった方々のお心を大切に、寄付品の販売場所として、館山駅近くで常設の販売店を開設したい」と理事会でお願いをいたしました。

以来、館山駅周辺で空き店舗を探しました。空き店舗は複数ありますが、障害のある方たちが働くためには、段差やトイレ、休憩室など考慮しなければいけないことがいくつかあります。

①人口は段差はない方がよい。

②トイレは洋式がよい。——トイレの中じゃがんだまま立てなくなってしまうたら大変。洋式便座にウォッシュレット付きならなお良い。トイレのドアは外開き、間仕切りは上部が空いて

いて欲しい。等々。

そしてもう一つ、利用者さん達がくたべれたときや問題が起きたとき、店の中に休憩場所を確保したいと思いました。大した条件ではありませんが、いざ館山駅周辺で空き店舗を探し始めると、なかなか条件に合った空き店舗は見つかりません。空いている店舗は元々店主さんたちの住居兼店舗であったものが多く、トイレは居住部分にあつたり、店舗で使えるトイレは、旧態依然とした和式トイレだつたりしました。



夏の盛

りの八月

末、やっと見つけたのが、この貸店舗です。

10月から賃貸の契約をし、千葉県に出張所の開設を申

請し、許可が出たのが11月中旬。冬バ

ザーの準備真最中で、新店舗の準備には人手が割けませんでした。店舗の内装工事は、送迎員として朝の迎えを担当している佐々木和（息子）に頼みました。壁の柱と柱の間に木枠を作って棚が設置できるように造作。材料費は材木代の1万円弱。棚材も十五年程前に閉鎖される店舗から安価で譲り受けてあつたものを使用し、金具の一部を5千円弱で購入。看板も自作しました。販売台やハンガーラックもバザーに使用している物を転用。開店のためにかかった費用は2万円を超えませんでした。

年末に地元の新聞社へ、新店舗開店の記事掲載のお願いに行きました。かにた婦人の村で始めたバザーが館山に定着し、全国から善意の寄付がたくさん寄せられること、1980年から90年の国際障害者年に、かにた婦人の村として多くの地域福祉の啓発に努力したこと、色々なイベントを企画し、地域で暮らす障害のある方たち希望や夢を聞いたこと、障害のある方たちの多くは働きたいと思つていること、エマオの夢はベーターであるこ

と等々、若い記者さんに共感を得られようお話ししました。

そして、エマオ館山駅前店開店予告の記事と、開店初日の様子などの記事を2回に分けて載せてくださいました。



やっと開店した常設店ですが、エマオの知名度はまだまだ広くはありません。でも、この時期（復活祭の近く）にエマオと名付けたと説明すると、クリスマスチャンではない方も理解してくださいます。理事長が命名して下さった『エマオ』です。開所式で理事長がお話しくださった言葉、「エマオとは、復活後のイエスが

初めて弟子と話しをした場所の地名です。温かい泉のある場所と言われています。」「一度失敗した方でも、もう一度再出発（復活）ができる場所として、エマオを利用していただきたい。」「寄付していただいた品物も、もう一度新たな価値を与えられ、生かされて行って欲しい。」「働く者も、寄付された品物も同じように、復活してほしい。」を大事にして、エマオが、新しい価値を見出される所に、なって行って欲しいと思っています。

利用者さんの中には、自宅で「いらっしやいませ！いかがですかー？」とか「ありがとうございますー。」などと声を出して練習している方もあると聞きました。新しいお店で働くことが嬉しいのでしょうか。

就労継続支援B型事業所・かにた作業所エマオは、施設として始まったばかりです。収入も利用者も少なく、経営は綱渡り状態です。エマオで働く利用者さん達の笑顔を糧に、支援して下さる方たちの協力を得ながら、少しずつ成長してゆけたらと思います。



念願だった地域の常設店も開店し、お客様も来てくださいますが、まだまだ、多くの方のご支援が必要です。

これからもどうぞ、エマオへのご支援をお願いいたします。

年明けて恵みの歩みしみじみと

杖の手の心の杖や冬ぬくし

心冷ゆ愁ふることの絶ゆるなき

ひそやかに咲く冬すみれ愛しけれ

何ゆえに舞うや粉雪わが胸に

哀歎の想ひ踏みしめ落葉道

* 植木 道子

厳しさを増す日韓関係に、心が痛みます。満州で生まれ育ち、

満州・朝鮮の方々と共に学び、

交わり、幾度か朝鮮半島を横断した経験

を持つ者にとって、やりきれない思いで

です。どうか、お互いに、想像力を働かせて、

解決の道を模索してほしいと願って

やみません。殊に我が国に、それを求め

ます。植民地化時代に与えてしまった傷

いまだ抱え続けている、その歴史に謙虚

に向き合うことを。

天羽 道子

ホームは、昨年暮れからインフルエン

ザ感染予防のため、面会中止です。

昨年クリスマスにも直接の面会ならず。

ただ毎月、写真入りで送られる「暮らし

の様子」によると、「毎朝、牛乳飲みなが

ら朝刊読むのが日課です」「毎日欠かさ

ず、腕のリハビリと歩行訓練を行って

ます」とのこと。桜庭 歌子(天羽代筆)

2019年の新しい年を迎えることが

出来て、心から感謝いたします。

人生の長い歩みは、思いがけないこと

が次々とおこり、その都度、右往左往す

るこの頃です。天候は、異常乾燥が続

き、平年より気温が高いため感染症が猛威を

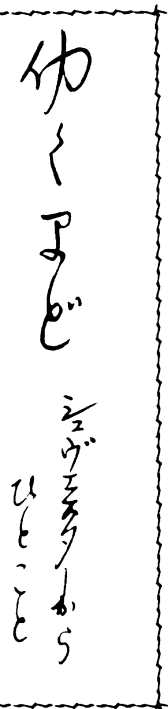
ふるっています。きびしい社会の動きの

中で、神様の恵みに助けられて一日一日

を元気で喜びをもって生

活したいと願います。

* 細井 陽子



今年は路のとうがたく

さん出てきて楽しみでし

た。みかんの木は老木で

切り倒してしまいました

が、今はきんかんの実がたくさんなつて

居り、梅の花も満開です。カリンの実も

たくさんとれたのですが堅くて切ること

もできずどうしてよいかわかりません。

夏みかんの実は高いところにたくさん

生って居ます。とても豊かな感じ

です。姉妹は一人入院して、今は三人ですが無

事に暮らしています。 眞山 知恵子

最近、食欲はあるのですが気分が落ち

込み、すごく情けない思いでしたが、2

月の末に、入院になりました。

でも、立ち直れると思います。早く元

気になりたいです。皆さんに助けられて

感謝しています。

小川 都代

(横田千代子聞き取り)

賛助金・クリスマス献金 ありがとうございました

大柳龍一郎 加藤明彦 菊地幸男 安東
 優 畑野めぐみ 渡辺きぬよ 村田充子
 今井佳代 鈴木純子 桑原亜子 小林充
 子 ベテスタ姉妹会 原和喜 大槻圭史
 飯久保芳子 三浦恒美 後藤信子 加藤
 美都子 中村由紀子 霧越仰 大浜重紀
 藤巻契司 井上京子 柴田とよこ 富室
 磨致子 大洲幼稚園 秋津教会 広瀬公
 男 鎌倉教会 浅野容子 深田光代 藤
 巻ひとみ 藤巻和司 柴山操 上富坂教
 会 余郷志津子 埼玉新生教会女性の会
 坂口節子 関本郁子 村田純一郎 村田
 多美子 神代英里 小谷志保 白鳥史子
 筒井克子 大沼昭彦 吉田実生 石塚久
 江・八重 斎藤仁一 須山弘子 入笠山
 讚美の家 大和キリスト教会支援委員会
 門司教会婦人会 八巻紀子 田浦教会内
 エレミヤ会 飯山泰子 黒田恭介 東洋
 英和女学院小学部母の会 東洋英和女学
 院中学部高等部母の会 大竹信義 太田
 瑠弥子 伊藤隆史 宮崎康久 大宮洋子

森史子 岩崎祐子 市橋みはる 伊牟田
 克子 瀬戸真知子 横田碩子 江村政子
 アシユラムセンター 西貝京子 自由学
 園女子部卒業生会 フェリス女学院中学
 校・高等学校ホワイトボックス 黒川裕
 子 今井直子 五十嵐敏子 目黒サレジ
 オ幼稚園 近藤浩子 飯久保芳子 普連
 土学園宗教委員会 貫井大輔 中
 村由紀子 彰栄学園宗教委員会
 浅野康子 信州教会 阿部志郎
 木元有美 但野明子 熊田てる子
 日本聾話学校 藤沢ベテル伝道所
 武庫川幼稚園 菅根ヨシ 峡南幼
 稚園 中平安子 水戸中央教会
 川口博司 伊藤瑞男 佐倉教会
 新津田沼教会 平井章 松戸教会
 東村山教会 村田充子 田村和子
 三田教会 横浜菊名教会 西千葉
 教会 ひばりが丘教会 新居浜西
 部教会教会学校 佐藤千郎 聖学
 院小学校 東北学院理事長・松本宣
 郎 関西学院宗教活動委員会 松
 下明子 小海良知 阿佐ヶ谷教会
 石神井教会 広尾教会代表者・米山

恭平 稚内ひかり幼稚園 大泉教会 千
 歳船橋教会 湯沢直美 横浜共立学園
 青山学院初等部 京都丸太町教会 鹿島
 信義 捜真女学校高等学部中学部 田園
 調布教会 柿の木坂教会 鎌倉雪ノ下教
 会 (敬称略)
 11月〜2月分

41 O Mensch bewein dein Sünde gross

1. ひ とよながつみの おおいなるをなげき く いてなみだせよ
 このゆえキリスト ち ちのもとをさり このよにぎましぬ

し にたるをいかし や まいまとりさり つ いにときいたり

ひ とのつ みのため じゅうじかの あがない お えさせたまいぬ

Sebald Heyden 1525, Mattheus Greitter 1525 深津文雄訳

★ 理事会

第221回理事会 11月14日

於 茂呂塾保育園

【報告】

第1号 業務執行理事の業務報告

第2号 かにた婦人の村運営に関わる
方策の件

【審議】

第1号 第2次補正予算

第2号 定時理事会開催の件

—— いずれの議案も承認議決されました。

第222回理事会 2月15日

於 茂呂塾保育園

【報告】

第1号 練馬西税務署の税務調査の結

果について

第2号 いずみ寮の源泉徴収税

【審議】

第1号 茂呂塾保育園園長交代と新園

長選任の件

第2号 かにた婦人の村副施設長選任

の件

第3号 評議員候補者推薦の件

第4号 平成30年度第3次補正予算

—— いずれの議案も承認議決されました。

願っています。

★ 住所変更のお知らせ

川田由美子さん(天羽道子の祈りの友)

〒130-0011

墨田区石原4-22-9 シティハイツ203

★ かにた教会

勝亦一江牧師は、一身上の都合により、

10月21日をもって、かにた教会協力牧師
を退任されました。合わせて、かにた婦
人の村の非常勤職員も10月15日付で退職

されました。お住まいはかにた婦人の村
の近くですので、買い物や散歩に出かけ

た村人との交流は続いています。

★ 人事

理事会の審議にもありますが、

大沼昭彦理事長は、兼任していた茂呂

塾保育園の園長を今年度末で退任、4月
からは現在副園長の高梨美紀が新園長に

就任いたします。また、2月16日付でか

にた婦人の村副施設長に、中村健二郎が
就任いたしました。今後ともよろしくお

★ 編集後記

今年は3月6日の灰の水曜日より受難
節に入ります。受難節に歌いたいコーラ
ル(ドイツ聖歌集41番)を掲載しました。

主のたいなる御名を賛美いたします。
昨年来、皆様からお寄せ下さいましたご

支援に心から感謝申し上げます。

今後とも引き続き、皆様の日々の祈り
の中でお覚え下さり、益々のご支援を賜
りますようお願い申し上げます。

2019年3月15日発行(年3回)

発行人 大沼昭彦

編集人 村田英彦

印刷所 (株)印刷センター

発行所

〒178-0061

東京都練馬区大泉学園町7-17-30

社会福祉法人ベテスタグ奉仕父母の家

電話 03-3924-2238

<https://www.bethesda-dmh.org/>

振替口座00190-2-1338164